

## 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人福井大学

### 1 全体評価

福井大学は、最多の原子力発電所、特徴的な技術を持つ企業の集積、子供の高学力、健康長寿等の特性を持つ地域に立脚する唯一の国立大学法人として、地域社会にしっかりと軸足を置きつつ、グローバル化社会で活躍できる高度専門職業人の育成、優れた科学的価値の創出、産業の振興、地域医療の向上等への貢献を目的としている。第3期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下、地域特性を踏まえた、地域の中核的拠点機能並びに地域医療の拠点機能をさらに発展させ、産学官連携機能を一層強化して、地域の創生と持続的な発展に貢献するとともに、重点研究分野における先進的研究や教師教育研究等を一層推進することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域密着・協働型の実践的なリカレント教育を行う「国際地域マネジメント研究科」の設置を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学生の国際交流を一層盛んにするため、日本語教育プログラムの充実、経済的支援の充実、外国人留学生受入及び日本人学生海外派遣プログラムの一層の充実、留学生用宿舎の拡大など支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ジョイントプログラム制度の構築などの結果、受入外国人留学生数は、第2期末の175名から、令和元年度（10月1日時点）には241名（増加率37.7%）と中期計画に掲げる目標を大きく超えて増加するとともに、留学生を受入れる国と地域が30に拡大しているほか、海外派遣日本人学生数は、第2期末の206名から、令和元年度には275名（増加率33.5%）と目標を大きく超えて増加している。（ユニット「地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材の育成」に関する取組）
- 福井県及び石川県の消防本部及び救急病院と連携し、ICTネットワークを用いたクラウド型救急医療連携システムによる病院への心電図及び救急画像の伝送を伴う搬送数は、クラウド活用により総務省のSCOPEにて運用している石川県加賀市救急隊からの心電図伝送と救急搬送の増加もあり、令和元年度の伝送回数累計205回（心電図108回、写真97回）を達成している。（ユニット「福井型地域医療モデルの構築・発信」に関する取組）

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

#### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ 地域創生に資する専門職大学院の新設

83の企業、11の自治体のトップに直接面談し企業や自治体の現状と課題を踏まえ、福井県内及び近隣の企業や自治体で、グローバル化対応の中核となり、リーダーとしてこれを推進することが期待される30から40歳前後の人材を主な対象とし、国際・地域分野とマネジメント分野を中心に学び、大学院学生各人のニーズに応じた外国語の研鑽を積むとともに、海外実地研修で国際感覚を養い、履修した科目の内容を実地で体得することなどを特色とする地域密着・協働型の実践的なリカレント教育を行う「国際地域マネジメント研究科」を新設する構想を取りまとめ、令和2年4月に設置することにしていく。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ 学長のリーダーシップによる外部資金獲得の取組

卒業生で、経営者、病院長等の職にある129名が会員となっている福井大学同窓経営者の会との協働で企業や卒業生に募金を働きかけるなどの取組の結果、福井大学基金の令和元年度受入額は対前年度比約3.4倍の過去最高額7,635万円となっているほか、福井大学基金の用途の多様化(7事業)を契機に、福井県のふるさと納税制度を活用した「県内大学応援プロジェクト」の応援事業内容を福井大学基金の事業と同一とした結果、令和元年度の寄附実績が311件、2,286万円となっており、このうち8割の1,829万円が大学に補助金として翌年度交付されることになっている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ 戦略的な情報発信の取組

広報センターを中心に、広報対象を15のステークホルダーに区分し、それぞれに広報目的、目標、方法を定め効果的な広報媒体を活用し広報活動を実施してきた結果、「就職に強い大学」との評価が広く認知されたことを受け、大学のキャリア支援を題材に地域活性化を目的とするドラマ化を実現しており、そのドラマ「シューカツ屋」は、NHK BSで全国放送された地域発ドラマの平均視聴率を大きく上回り1.9%を記録するなど、大学の優れたキャリア支援と人材の地域定着のための取組、福井の「ものづくり」の強みを全国に情報発信している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 県内大学等の連携による地方創生の推進

COC+事業で培った県内大学等の連携体制を活かし、福井大学を幹事校として福井県内8高等教育機関（福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学、福井医療大学、仁愛女子短期大学、福井工業高等専門学校）が連携する「ふくいアカデミックアライアンス」(FAA)を設立しているとともに福井県の将来を担う人材の育成や地域の発展への寄与を理念に掲げた活動を検討し、次年度以降に32科目の共同開講授業を実施することを決定している。

### ○ 在宅訪問診療所を活用した医療支援と総合診療医の育成

「かかりつけ医」機能の確保など在宅医療支援を充実させたい福井県吉田郡永平寺町と診療参加型医学実習や研修医教育など医師養成の場を求める本学が協定を結び、永平寺町立在宅訪問診療所を開設しており、大学が指定管理者となり、外来・訪問診療（訪問診療中の患者は24時間対応）を実施するとともに、学生の実習及び医師の研修を受入れ、在宅・介護等の県内の慢性期医療を支える総合診療専門医等を育成することとしている。

## 附属病院関係

（教育・研究面）

### ○ 国立3大学が連携した北陸地域の高度アレルギー専門医療人育成

令和元年度「課題解決型高度医療人材養成プログラム」アレルギー領域の公募において、取組が唯一採択され、金沢大学及び富山大学と連携し、高度な知識・技能を有するアレルギー専門医を育成する「北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン」を開始するなど、専門医療人養成を推進している。

### ○ アルツハイマー病の原因物質を抑える阻害薬の発見

「ROCK 阻害薬」が抑制することを動物実験などで解明し、本成果を基にアルツハイマー病の予防及び治療薬として実用化を目指し、臨床試験を計画するなど、新たな治療薬の研究開発を推進している。

（診療面）

### ○ 医療従事者の業務改善の推進

自院において開発・導入した医療器具「総合滅菌管理システム」により、手術の安全性向上と看護師らの業務改善が図られ、器具の組み立て作業ミスは9割以上、残業時間は8割以上大幅削減し、モバイルシステムの導入などの事例を顕彰する「MCPCアワード2019」で総務大臣賞を受賞するなど、業務改善を推進している。

(運営面)

○ 働き方改革の推進

看護師の、夜勤者と日勤者をユニフォームの色で区別し、医師も色の区別を理解することで、業務の整理が図られ、超過勤務が削減されるとともに、静脈採血及び院内基準に基づく静脈注射を看護師が実施する等、医師から他職種へのタスク・シフティングに取り組むことで医師の業務負担を軽減するなど働き方改革を推進している。

○ ベンチマーク分析による病院経営

県内主要4病院及び同規模大学病院とのベンチマークの分析データ等を活用し、DPC期間Ⅱ以内の退院割合や高難度手術件数等の経営指標を向上させる取組を実施し、平均在院日数(一般病床)が11.9日(平成30年度:12.1日)と過去最高の数値を達成している。